

# 平和予算の削減、体操ジムリーナの強行などを批判 日本共産党議員団、昨年度一般会計決算認定で討論

9月議会最終日、委員会付託となった案件の委員長報告、討論、採決などが行われました。

日本共産党議員団を代表して討論に立ったのは平良木議員です。同議員は、市長が提案した32議案のうち、6議案に反対した理由をのべました。

このうち、昨年度的一般会計歳入歳出決算の認定では、「妊産婦医療費の完全無料化、移住・就業支援金制度の創設などいくつか評価できる点があるが、いくつもの重大な問題点を持っている」として、①行政改革の名の下に、中学生の広島平和記念式典への派遣人数を3分の1に減らしたこと、②市民の懸念をよそに公立保育園の民営

化を進めていること、③市民合意がないなかで、上越体操場ジムリーナ建設を強行したことなどを批判しました。

採決では日本共産党議員団が6議案だけ反対、他の議案に賛成しました。他の党派、無所属議員は全議案に賛成でした。

## 20人程度の学級求める 請願は不採択に

請願関係でも平良木議員が登壇、討論を行いました。同議員は、新婦人の皆さんが提出した「新型コロナウイルス感染症対策の強化、少人数学級の実現と教員の抜本的増員を求める意見書の提出に関する請願」について、賛成討論を行いました。

同議員は「(新型コロナウイルス)を防止するために、そして、子どもたちの学びを保障するためには、児童・生徒間の十分な距離を保ったうえで教育活動を継続するため、早急に少人数学級を実現することが求められている」とのべました。

その上で、一時行われた分散登校を経験した現場の先生方の「すべての子どもを丁寧に見てあげられるようになった」「少人数学級は、マスク越しでも子どもの声が聞こえ、表情を感じられることが分かった」などの声を紹介しました。また、「財源はあるのか」「など委員会審査などで出された疑問にも答え、大丈夫であることを明らかにしました。

採決の結果、日本共産党議員団と市民クラブの5議員が採択に賛成したも

の、他の議員は反対しました。反対討論は今回ありませんでした。



【キバナアキギリ】シソ科の多年草。漢字で「黄花秋桐」と書きます。草丈は20センチ～40センチ。低地の林の中などで見かけます。花は唇型で、淡黄色です。8月～10月に咲きます。花言葉は「可憐」「華やかな青春」。

## 食料自給率、家族農業をもっと大切に する政策を

9月議会の一般質問で私は、新型コロナウイルスとの関連で農業政策はどうあるべきか、原子力災害発生時の避難計画などについてとり上げました。今号では農業関係の質問の一部を紹介いたします。

【橋爪】新型コロナウイルス感染症は食料を自給できない日本農業の弱点を浮き彫りにした。国では「食料・農業・農村基本計画」を改定したが不十分だ。国連の「家族農業の10年」を重視すべきだ。当市は「食料・農業・農村基本条例」という素晴らしい条例を20年前に制定したが、いま、これに磨きをかけて農業政策を展開していくことが求められているのではないか。

幅広く生産基盤の強化も図っていくこととされた。当市の「食料・農業・農村基本計画」の見直し作業では、国の見直しポイントを基本としつつ、大規模経営体のみならず、小規模な農家であっても、意欲と誇りを一層高め、将来にわたって希望が持てる「道しるべ」としていく。



# はしづめ法一の 活動レポート

**No.1979 2020.10.4**  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第六二六回

### 「苦勞さん会」

柏崎市にある妻の実家の稲刈りが終わつたし、ご苦勞さん会をやるので来ないかと義兄に誘われ、先日、出かけてきました。

妻の実家に集まったのは、義兄と妻の姉夫婦、すぐ近くの親戚のY子さん、それに私たち夫婦の六人です。それぞれ、ビールや酒、サラダなど飲み物や食べ物を持ちよりました。

飯台の上に広げたら豪華でしたよ。トマトやエビ、ハムなどが入ったサラダ、チーズと栗、トマトとキウイフルーツ、揚げ物、煮豆、ハヤトウリの粕漬、乾物などがところ狭しと並んだのです。

ビールとノンアルコールで乾杯をして会は開始しました。

まずは今年の稲刈りの苦勞話です。妻の実家では、今年は稲がべったり倒れ、コンバインが刈る前に稲を棒で起こすという作業をしなければなりませんでした。それも一枚や二枚ではなかったのです。

稲が倒伏しただけではありません。今年のはあちこちで動物による被害がありました。妻の実家もそうです。イノシシらしきものが田んぼの中を行き来して荒らしました。ただ、寝転がり、稲を片っ端から倒し、臭いをつけるというところまではいかなかったのが救いだっといういます。

田んぼに入った妻の姿を初めて見たと義姉が言ったことを契機に、稲刈りの話は今年のことだけでなく、ずっと昔のことにも広がりました。

妻は、実際は子どもの頃、田んぼに入っていたそうです。ただ、「とうちゃんに『鎌を持たせたら、危なっかしい』と言われ、稲まるけに徹した」とか。また、ハサガけの手伝いでは、稲を投げるときのコントロールが悪く、義父から時どき、「顔のそばに投げるな」としかられたという思い出を語っていました。

みんなが話をしているさなか、時折、チ

リン、チリンという風鈴の音がしました。居間と広間の仕切りのところにある風鈴です。裏庭から入ってくる風が風鈴の一番下にぶら下がった厚紙を揺らすと、その上にある金属製の細い棒がぶつかり合っってよく響く高い音を発生するのでした。

会がスタートしてから約一時間後、半田の蕎麦屋さんに頼んでおいた鍋焼きうどんが到着しました。到着したばかりの鍋は熱く、中に入ったものからは湯気が立ち上っています。鍋の中には、ホウレンソウ、ネギ、蒲鉾、シイタケ、鶏肉などが入っていました。一週間ほど前まで、「暑い、暑い」と言っていたのですが、この冬の食べ物、実に美味しかったです。

鍋焼きうどんを食べていたときだったでしょうが、外ではツクツクボウシが鳴き、「チキチキ、チキチキ」という小鳥の声も聞こえてきました。前庭では、百日紅の花が咲いていました。誰かが「今年は百日紅、長持ちしているね。がんばろうしている」と言うと、みんながいつせいに百日紅の花を見ました。赤い百日紅が空に向かって、突き上げるようにして咲いていました。確かに「決意」を感じましたね。

鍋焼きうどんを食べ終わったら急に睡魔が襲ってきました。私だけでなく男性陣はみんな同じ、全員が飯台の脇で横になり、沈没しました。でも女性陣は楽しそうに、おしゃべりを続けていました。

一時間ほど寝たのでしようか。全員が起きた時点で、妻が原之町のお菓子屋さんで買って持参した「ふまんじゅう」をデザートとして出し、みんな食べました。味も良かったし、本物の笹で包んであることにも驚きの声が上がりました。

この日、集まった者は妻が六十代であるほかはみんな七十代でした。最後に、義兄が言いました。来年も田んぼ作って、また、ご苦勞さん会、よろこびで。

## サクラ咲く

異常気象の影響ででしょうか、吉川区や上吉野など市内各地でサクラが咲いています。写真は吉川区大乘寺地内のサクラです。花はぽつりぽつりですが、薄いピンク色や白い花を咲かせています。サクラは、いつ咲いてもきれいですね。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月23日(水)	9月30日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.053	0.047
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.050
高士分遣所	0.050	0.053

## ポピーや朝顔も

高田本町ちのギャラリー「祥」で開催されていた牧野虎雄展へ行ってきました。

牧野虎雄は1890年(明治23)西城町生まれ。東京美術学校(現在の東京芸大)卒業の洋画家です。

同じく高田出身の日本画家、小林古径とほぼ同じ時代に活動していました。洋画を描きましたが、南画の要素を油彩画に取り入れるなど、その作風には独特のものがあります。作品展では、ポピーや朝顔など身近な物を描いた作品にひかれました。

